

(5) セメント工業

15 / 14 16 / 15 伸び率 10%以上 ● 伸び率 0 ~ 10%
: 天気図マーク; ● 伸び率 0 ~ 10% 伸び率 10%以下

1 . 企業経営動向

1) 需要

平成 1 5 年度は、前年度よりセメントの輸出量は増加したものの、依然として国内販売が不振であったため、需要は前年度を下回った値で推移。平成 1 6 年度に入ってもその傾向は続くものと見られる。まず、輸出については、国際イベントを控えている中国向けが増大傾向にあり、引き続き増加する見込みである。一方、輸入については国内需要が厳しい状況であり今後も減少していく見込みである。また、内需については、民需における建設投資が回復傾向にあるものの、官公需における公共事業の削減により、全体の建設投資は依然厳しい状況が続くと見られ、こうしたことから需要については、当面、減少が続くと見込まれる。

2) 生産、設備

直近の動向としては、平成 1 5 年度のセメント生産は 7 , 3 5 1 万トンと対前年度比 2 . 6 % 減となった。国内販売は同 6 . 2 % 減、輸出量は同 1 5 . 5 % 増となっている。期末在庫については同 9 . 4 % 減少している。また、ここ数年のセメント生産高の落ち込みによる稼働率の低下から工場の統廃合が進み、平成 1 6 年 4 月時点での設備能力は 7 , 4 2 5 万トン、工場数は 3 3 となり、平成 7 年度と比べると生産能力は 2 3 . 9 %、工場数は 9 工場減少した。

3) 企業収益

平成 1 5 年度は、国内販売の不振等により売上は落ち込んだものの、セメントの輸出数量は前年より増加したことや、合理化努力により営業利益は前年を上回った。

平成 1 6 年度については、国内販売の伸び悩み、石炭価格の高騰などから、厳しい状況が続くと見込まれる。

4) 財務

平成 1 5 年度に引き続き平成 1 6 年度も、財務構造の改善を目的とする有利子負債の更なる削減が見込まれる。

2. 設備投資動向(これまでの推移、14年度実績、15年度実績見込、16年度計画)

- ・セメント産業の設備投資の動向を見ると、セメント生産量の減少からその主な投資目的は維持・補修や合理化・省力化で、その傾向は続いている。
- ・平成14年度の設備投資実績については、設備投資の主な投資目的として維持・補修及び合理化・省力化となっている。
- ・平成15年度の設備投資実績見込額については、設備の維持・補修に対する経費が約4割を占め、次いで設備の合理化・省力化へ約2割の投資となる見込み。
- ・平成16年度設備投資計画額については、過去の傾向とあまり変化が見受けられなく、セメント需要の減少から構成比としては維持・補修や合理化・省力化といった必要最低限の設備投資に重点を置く傾向が続く見込み。

3. 長期資金調達・運用動向(長期資金運用動向、長期資金調達動向)

・長期資金調達・運用状況について

平成15年度見込みと比較して平成16年度は、長期資金運用の動向については、短期資金への振り替えが増額することにより増加する見込みである。長期資金調達については、引き続き借入金は借入金残高を減らす傾向にあり、また内部資金は減少する見込みで、その多くが減価償却で占められており、この傾向は変わらない。

(グラフ1：設備投資の前年度比の推移)

